



七里小だより

1月号

さいたま市立七里小学校
令和3年1月7日

謹賀新年

あけましておめでとうございます。今年もどうぞ、よろしく願いいたします。

校長 保坂 泰司

本日より、3学期が始まりました。朝、久しぶりに会う子どもたちは、いつもと変わらず大きな声であいさつをしてくれました。みんな元気そうで我々教職員一同、安心しました。また、休み中は大きな事故や怪我の報告は無く、子どもたちは元気に過ごしたと存じます。これも、地域、保護者の皆様の見守りがあったからこそであると思います。ありがとうございます。

最近、よく次のようなことを考えます。小学校での学習内容(基礎基本的事項)をすべての子どもたちに定着させるためにはどうすればよいものかと…。そのためには、第一に学校の指導力を日々の研修によって高めていかなければなりません。そして、一人ひとりの子どもに学びたいという意欲をもたせなければなりません。そのために学校で「できた・わかった喜び」をたくさん味わわせていく必要があると考えます。その意欲さえ子どもたちにもたせられれば、飛行機に引っ張られ大空を舞うグライダーのように、今まで学校で教師に引っ張られていた子どもたちが、エンジンを身に付け自力で飛行することができるようになる、つまり自ら進んで学習に取り組むようになる。その結果、学習の基礎基本的事項を身に付けることに繋がると考えます。

このように考える中、クラスを見回っていて、よく思うことがあります。それは、子どもが学習に向かうための準備や心構えについてです。子どもたちの筆箱の中身を見ると様々です。すべての鉛筆の芯がとがっているものや、鉛筆の芯が削られておらず丸いものや折れているものなど、時には割れて細くなった状態の消しゴム(筆箱内で散乱している)を見ることがあります。学習に向かう準備、心構えが子どもによって様々であるのが現状です。野球をするにはバットやグローブ、サッカーではシューズやボールの日頃の手入れや準備が必要です。これらができて初めて、練習や試合に臨むことができるのです。学習も全く同じことが言えるのではないかと考えます。日々の授業に向かうための準備として、筆箱の中身の確認や時間割を見て学習用具を準備する。これらが日々しっかりできて、学習に向かうことができるのです。基礎基本的事項を定着させるためのスタートラインに立つために、この心構えを大切に、もち続けて行って欲しいと思います。学校からも、子どもたちへの徹底を呼び掛けていきます。どうぞ、ご家庭でも声掛けをよろしくお願いいたします。

ここで、私が読んだ本の中で、今でも大切に思う一節を紹介させていただきます。

○靴こそ最強の相棒

【「自分が変わる靴磨きの習慣」 長谷川裕也】

- ①いつも足元から支えてくれる
- ②どんな状況でも、黙って泣き言も言わず、付き合ってくれる
- ③こちらから裏切らない限り、絶対に不義理なことはしない
- ④ときに、自分の価値を実物以上に輝かしい存在に見せてくれる
- ⑤丁寧に扱うことで、必ずカラダと心を軽やかにしてくれる

人は毎朝、これから始まる何が起きるか分からないワクワクな一日のために、家から出る時に靴を履きます。だからこそ、人にとって身近な靴を、常に手入れをして磨き、大切にしていかなければならないと思います。まさに、毎日学校へ向かう子どもたちの心構えと重なるような気がしてなりません。最後に、地域、保護者の皆様、今年も子どもたちのより良い成長のために、本校の教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。併せて、コロナ禍が厳しくなる中、感染防止のための「手洗い・うがい・マスク着用」の徹底も引き続きよろしくお願いいたします。